

中越の国有林

中越森林管理署長 開藤直樹

～ 国有林の概要 ～

中越森林管理署は新潟県の中越地方の10市4町2村にまたがる区域を管轄しています。国有林は主に中越地方の東部から南部にかけての、福島、群馬、長野の各県に接する急峻な山岳地帯に分布しています。このうち国有林が所在するのは、7市2町で、その面積は約10万haであり、中越地方の森林の約31%を占めています。管内の森林は人工林が約6%、天然林が約94%。針・広別では、針葉樹林が13%、広葉樹林が87%となっています。

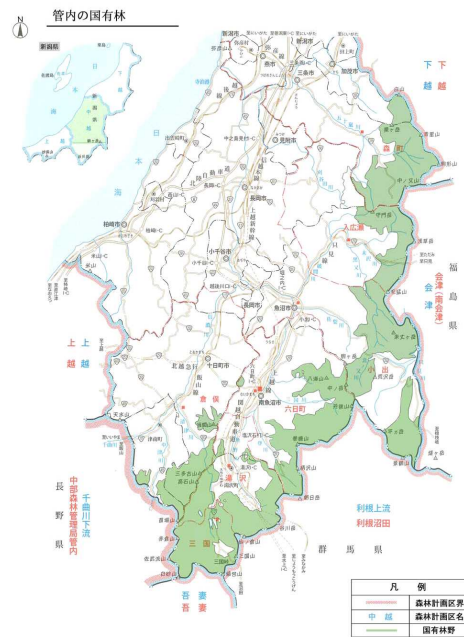
地形は急峻で、福島県境の越後山脈、群馬県境の三国山脈等により形成され、八海山や巻機山、苗場山といった、多くの登山客が訪れる山々があります。

豊かな自然環境を背景に「上信越高原国立公園」や「尾瀬国立公園」、「越後三山只見国定公園」などの自然公園に指定されており、信越トレイル、スノーカントリートレイルといったロングトレイルが設定され利用されています。また、国の名勝及び天然記念物に指定された日本三大渓谷の一つでもある清津峡など、自然環境に関する観光面でも人気の高いエリアとなっています。

管内を信濃川が縦断し、中津川、清津川、三国川、魚野川などの支流が合流し越後平野を潤しています。国有林はこれら河川の源流部に位置しており、この地域の特産でもある、おいしいお米や日本酒醸造に欠かせない良質な水を育む水源地として重要な役割を果たしています。

気候は日本海側気候に属し、冬季は日本海からの季節風が山間部に多量の降雪をもたらす我が国有数の豪雪地帯です。豊富な積雪を活用した全国有数のスキー

場エリアであり、JR上越新幹線や関越自動車道が整備され、首都圏からのアクセスも良好なことから、多くのスキー客が訪れ、地域の観光産業に寄与しています。近年では、スキー・スノーボードなどのスポーツだけではなく、雪を見たり、雪で遊んだりすることを目的としたインバウンドのツアーも企画され、多くの外国人観光客も訪れています。



～ 地域振興や学習活動へ寄与する ～

自然環境や観光立地に恵まれている当署管内の国有林の特性を活かし「国民の森林」としての管理経営を行っていくうえで、公益的機能を高度に発揮させるための森林整備を行うとともに、観光資源などに積極的に活用することにも重点的に取り組んでいます。教育・文化・保健休養など多様な利用のため、自然休養林や自然観察教育林、野外スポーツ地域などの「レクリエーションの森」を32箇所設定し、スキー場施設や山小屋、湿原の遊歩道や展望台といった多くの方がスポーツや自然探勝等で自然とのふれあう場を提供し、地域の振興に寄与しています。

一例を挙げると、石打丸山スキー場では、ゲレンデに「モンスターパイプ」というハーフパイプを設置したり、最新のリフトの設置などの整備を進めています。これは、昨今のスキーよりもボードという若者のニーズに合わせたもので、来場者数を増加させることに成功しています。今シーズンは記録的な少雪でしたが、苗場スキー場では4年ぶりにアルペンスキーのワールドカップが開催されました。



また、自然とのふれあいの場として、「ふれあいの森」や「遊々の森」を設定し、森林における様々な体験活動や学習活動を行う場として国有林を活用しています。魚沼市大白川の浅草岳を望む「浅草山麓遊々の森」では、県立エコミュージアムの周辺国有林約230haをエリアとして、バリアフリーの遊歩道・観察道等が整備され、小中学生の体験学習など、自然の中で遊び、自然環境について学ぶ場として利用されています。



毎年夏、苗場スキー場では、日本最大規模の野外音楽イベント「フジロック」が開催されています。4日間で延べ12万人もの人が訪れるビッグイベントですが、自然と音楽の共生を目指し、平成23年にフジロック主催者と新潟県及び湯沢町との間で協定が結ばれ「フジロックの森」プロジェクトが始まりました。プロジェクトの活動の一つに、森を親しむエリアの整備があり、会場周辺の森林整備や自然散策を楽しむ木道の整備等が実施されており、国有林を活用していただいています。



紹介したのは一例ですが、当署管内の国有林は、このほかにも「法人の森」等の分収造林や、ダム、公園、道路、電気事業施設等の公共用施設。山菜等の産物を採取する共用林など、様々な目的で国有林を活用していただいています。

今後も「国民の森林」として地域の振興に寄与できればと考えます。

～ 森林を育て利用する ～

当署管内の国有林の人工林の占める割合は約6%と低いのですが、スギ、カラマツを中心に主伐期に達した森林も多く、年間約2万7千m³（令和2年度計画）の木材生産を行っています。実施に当たっては、南魚沼市山口地域及び湯沢町水無地区の2箇所共同施業団地の協定を結び民有林と連携した木材生産や森林整備に取り組むとともに、木材の安定供給のためのシステム販売を民有林と連携して実施するなど、民国連携の取組を推進しています。



一方天然林については、大半が広葉樹林で、ブナ、ミズナラ、コナラが中心の二次林が多く、伐採はされず木材として利用されていないのが実態です。民有林においても、広葉樹林の割合が高いのは国有林と同様であり、この地域においては、今後、林業を成長産業化し、「もうかる林業」としていくためには、広葉樹をもっと活用していくことが大きな

鍵となるのではないかと考えています。木材として付加価値の高い需要の開拓や森林生態系に配慮した森林施業など課題が多いのですが、民有林と連携して広葉樹林の育成と利用について検討を進めていきたいと考えています。

～ 終わりに ～

中越地域の国有林には、自然環境に恵まれた多くの「おすすめスポット」があります。夏は登山、冬はスキーなどもできます。ぜひ「来て」、「見て」、「体験」してみてください。中越森林管理署では、中越地方の森林の約30%を占める国有林について、公益的機能の維持増進を図るための森林整備を進めつつ多様化する要請に応え、「国民の森林」、「地域の森林」として管理経営を進めてまいります。

～ おまけ ～

当署が管理している御所国有林には、新潟県三条市から福島県只見町まで続く峠道、通称「八十里越」と呼ばれる峠道ルート（現存していない。）があります。戦国時代から、越後と南会津を結ぶ経済や人的交流の重要な道路でした。幕末の長岡藩の家老、河井継之助が北越戊辰戦争に敗れ、会津藩へ落ち延びた道で、河井継之助が「八十里 腰抜け武士の越す峠」の辞世の句を詠んだとされる峠道です。道が険しく8里が80



御所国有林

里にも感じられるほどの難所だったため八十里越と呼ばれるようになったそうです。（諸説あるそうです。）大正期に鉄道（磐越西線（旧岩越鉄道・岩越線））が開通してからは使われなくなり、現在では道跡すら残っていませんが、周辺の国有林には、ブナ、ミズナラ等の天然林が広がり、五十嵐川の溪谷と調和した優れた景観を呈しています。今年は、この「八十里越」に関連する映画の公開が予定されています。河井継之助の生涯を描いた、司馬遼太郎の小説「峠」を原作とした映画「峠 最後のサムライ」と三条市出身で「最後の瞽女（ごぜ）」（盲目の旅芸人）と呼ばれる小林ハルの生涯を描いた「瞽女」の2本です。今は無い歴史の道が注目を集めそうです。